



昨年の5月連休は部活や勉強など3人の子どもたちが忙しくなり、バラバラに過ごしたのが一転、再び家族5人が家で過ごす連休になるとは予想もしてなかった。休校はもう丸2ヶ月を経過し、真っ黒だった子どもたちは色白に。同僚や友だちで単身赴任している人の中には、帰れずに赴任先で過ごした人も。多くの人が生活の変更を余儀なくされ、思考が止まりそうになる。

コロナウイルス対策として、長年労協連で製造してきた次亜塩素酸水(以下、クリーンキラーエース)が大活躍している。病院清掃を担うなかで、毎年ノロウイルスやインフルエンザウイルスの対策に追われるなか、自らも安心して使用できるクリーンキラーエースを開発し、病院清掃はもとより、内部の高齢者介護事業所、障がい者施設、子育て支援現場など多様な場所で感染予防・除菌・消臭として幅広く活用してきた。その実績から、関連する外部の高齢者・障がい者・子ども施設からの依頼が増え、なかには新潟市や長野県千曲市など日常的に関係がある自治体から市役所・障がい者施設・保育園・巡回バスなどの感染予防に使用したいと注文が入る。

コロナの影響で、全国から集まって会議をすることが困難となり、WEB会議が多用されるようになった。すぐには慣れないところもあるが、WEBでも話し合いや意

思決定することができることが分かり、活用を広げている。WEBで開催したことで、移動の時間や浮いた費用をどのように有効に活用するのも考えていきたい。

労協連に加盟する28団体に呼びかけ、加盟組織WEB会議(4/20)を初めて開催することもできた。古村理事長より協同組合の自治と自立を基本に、短期と中長期的な視点で失業と労働からの排除に対する就労創出と仕事おこしや持続可能な地域づくりを見据えたコロナ指針が出された。加盟団体からは高齢者・子育て現場での感染対策や、困窮者相談やフードバンクへの相談の増加、とりわけ福岡・大分のタクシー事業の困難な状況も共有された。一方でデザイン、広報、IT、電気管理など新たに加盟した団体からは、自分たちの技術を活かした連携や若者の育成・新しい仕事おこしなどが呼び掛けられ、ポストコロナ時代に向けた可能性も感じた。

労働者協同組合法が必要な状況がコロナ過で一層高まってきており、ぜひ今国会での法制化を実現したい。協同組合振興研究議員連盟総会のあと、各党の労協法制化の担当者会議(4/16)が開催され、議連総会で出された意見などについて検討している。6月会期末までの成立を目指し、行動していく。